

Text/Atsushi TAMADA Photo/Takaaki MIURA

デイトナ不動産

OWNER

東京都大田区
楠川浩之さん

合理性と秀逸なフォルムの合一
東京の商店街に建つ都市型ガレージハウス



艶消し黒の鉄骨を露出させて、ハードボイルド感覚全開のガレージハウスが遂に完成しました。狭い土地でも建築可能で、クルマ好きの生活にもフィットするデイトナハウスならではの新しい都市型住宅です。



1 / LGSのプレースを横目にリビングを望む。住宅の施主であるご夫妻には今年初めに赤ちゃんも誕生。こだわりぬいて完成させた注文住宅で子供と過ごす暮らしは、最高に幸せとのこと。2 / オーナーが自ら探してきたインダストリアル系のロッカーを配置した玄関まわり。このロッカーがびったり収まるように設計したというこだわりようです。ちょこんと正面にあるヘルメットもかわいい。3 / 施主様のオリジナル製作アルミのハンガーボード。黒い壁に鈍い光沢感がたまらない。4 / 浴室の横にある脱衣室までブラックウォールの徹底ぶり。5 / エアコンをDIYで黒く塗装し、電線配管もプレースとともにシンメトリーに配置したテレビスペース。



2 1
5 4 3

この家の特長は、何と言っても家全体をブラックに統一したこと。その決め手は、通常のチャコールグレーではなく、「ブラックウォール」と呼ぶ黒い壁を採用したこと。これにより、異なるトーンの黒の中においてグラデーションが生まれるのです。壁の色が黒いと鉄骨の素材感がかすんでしまうと思いきや、むしろ逆。黒の濃淡が鉄骨の骨組みの力強さと素材感を浮き彫りにして、シックなメリハリを出すのです。特に効果が発揮するのが夜の表情。暖色系の照明の陰影で浮き立つ黒の鉄骨。インテリアデザインの素養のあるこの家のオーナーは、そこにラフな木質系や、生成りの布系など柔らかな素材感を巧みに取り合わせて、魅力を更に倍増しています。

このような都市型住宅を計画する際は、土地形状の吟味がとても大切です。この土地の間口は2間半（1間は畳一枚分の長さ）。レッカー車が敷地に乗り込んで奥から順に鉄骨を組み上げていける最少寸法です。土地探しの段階から、施工のポイントもチェックしながら計画を進めました。鉄骨の組み立てにも工夫が必要です。3DのCGで1日ごとの鉄骨建て方の推移を表現して、工場での出荷段階から仕分けをしておき、現場には1日の組み立てのみ搬入。鉄骨製作工場にこの緻密なプロセスを取り入れることで都市型ガレージハウスの建築が可能になるのです。

立地や工事条件によって、費用は多少変わってきますが、都市部でデイトナハウスを建てたいと思っっている方は気軽にお問い合わせください。

鉄骨の素材感とブラックウォールで構成したメインベッドルームは、武骨さと優しさの絶妙に同居。永い間、愛着が持続する飽きのこない空間となっています。照明のトーンを落とせば、鉄骨の表情は更に変化。ここでもエアコンは施主様オリジナルの黒色塗装。通りに面した明るい部屋の大開口にフィルター役目をするブラインドのセレクトがとても重要。

3Fのルーバルコニー、壁面の凹凸の奥行きと、均等配列のプレースが外観を印象的にする意匠的效果がうれしい。加えて屋根つきのバルコニーの便利さは捨てがたい。どうしてもここでBBQがしたくなる。オリジナル製作の手すりの鉄感も大事な要素。

